

令和6年第1回那覇港管理組合議会（2月定例会）

令和6年度 施政方針

令和6年2月1日

那覇港管理組合

令和6年度 施政方針

ハイサイ、グスーヨー チューウガナビラ。

『舟楫しゅうしゅうをもって万国の津梁となす、世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ“みなと”』を基本理念に掲げた那覇港港湾計画は、港湾関係者や行政機関等多くの皆様のご意見を踏まえ、昨年3月、20年ぶりに改訂を行いました。

今回の改訂は、那覇港における航路網の充実や物流効率化による県内企業の競争力の強化、多様なクルーズの誘致による観光の高付加価値化など、那覇港がアジアの中継拠点港として、沖縄の自立型経済の構築と日本並びにアジアの成長に大きく貢献することを目指すものであります。

那覇港が「新時代沖縄」の牽引役となり、更なる発展を遂げるよう、引き続き関係者の皆様の絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、令和6年第1回那覇港管理組合議会の開会にあたり、各議案の御審議に先立ちまして、「運営の基本方針」、「令和6年度主要施策」、

そして「令和6年度予算編成」の3つからなる施政方針を表明させていただきます。

まず、はじめに「運営の基本方針」についてご説明申し上げます。

国内外の貨物を取り扱う那覇港は、沖縄県全域の社会経済活動を支える大変重要な港であります。国の港湾の中長期政策PORT2030^{にーまるさんまる}、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画、沖縄県SDGs推進方針などの計画と整合し、自然環境等に最大限配慮しつつ、経済効果の創出を図るために必要な物流及び交流・賑わいに係る開発空間を確保することが重要となることから、新たな那覇港港湾計画に位置付けられた様々な計画を一つずつ着実に推進してまいります。

災害に強い県土づくり、いわゆる「社会基盤の強靱化」につきましては、この度の令和6年能登半島地震の被害を目の当たりにして、大規模災害への備えの重要性を改めて認識したところであり、緊急物資輸送機能を有する施設整備等を進め、また、老朽化が著しい港湾施設の安全性を確

保するとともに、予防的な保全による既存施設の延命化や建て替え等を計画的に実施し、安全・安心かつ利用者の信頼に応えられる港づくりを推進してまいります。

本県の生活・産業関連貨物の大部分を占める港湾貨物を取り扱う那覇港においては、物流の高度化、流通加工等の付加価値型産業の集積に取り組むとともに、運営事業者と連携を図りながら、集貨・創貨による輸出入貨物増大を目指してまいります。

航路網拡充、物流効率化に向けては、那覇国際コンテナターミナル株式会社と連携し、船社や荷主へのポートセールスに取り組むとともに、内貿と外貿の連携強化、移入から輸入への転換など、アジア・沖縄・日本を繋ぐ中継拠点港の形成を推進してまいります。

2024年度からのトラックドライバー等の時間外労働の上限規制、いわゆる「2024年問題」につきましては、県内物流業界においても少なからず影響があるものと考えております。国におきまして

は、持続可能な物流の実現に向け、トラック輸送から海上輸送等への転換を図るモーダルシフトが対策の一つとして掲げられており、那覇港においても全国的なモーダルシフトの流れを取り込みながら、物流の効率化を推進してまいります。

クルーズ船の寄港につきましては、令和元年に全国1位となったのち、令和2年3月以降、クルーズ船の寄港が無い状況が続いておりましたが、昨年1月に国内クルーズ船が約3年ぶりに寄港し、3月には国際クルーズ船の寄港も再開されました。

また、昨年2月に供用開始をした第2クルーズバースには、6月にクルーズ船が初寄港し、本年1月からは大型クルーズ船による発着クルーズが実施されるなど、那覇港におけるクルーズ船寄港は回復基調にあります。

「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」に示された、フライ&クルーズ等の付加価値の高いクルーズ誘致を含めた多様なクルーズの受け入れ環境の整備を推進してまいります。

浦添ふ頭地区においては、富裕層等の長期滞在型観光の拠点となる世界から選ばれる持続可能な観光地の形成を図るため、自然環境を活かし、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した高付加価値な都市型リゾートとしてマリーナ・海洋緑地などから構成する観光・ビジネスの拠点形成を推進してまいります。

港湾施設の管理運営につきましては、日々のパトロールや定期的な点検を通して適正で能率的な管理運営を行うとともに、港湾施設管理等のデジタル化を推進してまいります。

那覇港の経営基盤の強化に向け、将来にわたり安定的・継続的な港湾サービスの提供が可能となるよう、引き続き、歳入の確保を図り、事業の選択と集中に取り組んでまいります。

次に那覇港の目指す4つの将来像を柱とした「令和6年度主要施策」について、ご説明申し上げます。

まず1つ目に、「アジアのダイナミズムを取り込み、自立型経済の構築を支える国際流通拠点とな

る“みなと”」について申し上げます。

総合物流センターの第1期事業の取扱量は計画値を達成しており、第2期、第3期の事業につきましても、事業化の可能性が確認できたことから、民設民営での公募に向けた実施方針の策定に取り組んでまいります。

また、那覇港を利用する物流の効率化に向け、国際コンテナ貨物の効率的な輸送への転換、輸送経路の多様化、貨物量増大を目的とした那覇港輸送効率化支援事業に、引き続き取り組んでまいります。

さらに、国際コンテナターミナル等における物流システムの高度化につきましては、貨物量の推移を注視しながら、実施に向けて取り組んでまいります。

新港ふ頭地区は、近年の貨物量増加や船舶大型化に対応出来ておらず、岸壁延長と荷捌き用地の不足により、船舶の係留や荷役作業の安全性低下、点在する荷捌き用地への非効率な横持ち輸送等が慢性化していることから、那覇港の物流機能

の強化のため、国が行う新港ふ頭地区 14 号岸壁整備と併せて背後のふ頭用地の整備に取り組んでまいります。

また、国の事業である臨港道路若狭港町線の整備に伴う新港ふ頭地区再編につきましても、ふ頭用地等の整備に取り組んでまいります。

現状の浦添ふ頭地区等における港内の静穏度の確保、および荷役作業の効率性と船舶航行の安全性の確保に資するため、国の事業である浦添ふ頭第 1 防波堤の着実な整備を促進してまいります。

港湾施設管理等のデジタル化につきましては、クルーズ船寄港予約管理システムの構築などに取り組んでまいります。

2 つ目に、「世界と沖縄、琉球の歴史・文化を繋ぎ、観光の高付加価値化に導く“みなと”」について申し上げます。

那覇港は、国土交通大臣から国際旅客船拠点形成港湾の指定を受け、官民連携による旅客ターミナル整備に向け取り組んでおり、沖縄県の観光振興に寄与する長期的かつ安定的なクルーズ船の寄

港を促進してまいります。

また、フライ&クルーズやラグジュアリークラスのクルーズ船など多様なクルーズの寄港増を目指し、ターミナルビルの利便性向上による受入機能の充実を図るなど、引き続き、沖縄県及び観光関係団体と連携し質の高いクルーズ観光の推進に向けて取り組んでまいります。

港湾計画改訂等を踏まえ、地域の歴史・文化等を活かしたウォーターフロント空間の創出等を図る「みなとまちづくりマスタープラン」の見直しに取り組んでまいります。

浦添ふ頭地区においては、交流・賑わい空間の整備にかかる環境アセスメントの手続き等に浦添市と連携して取り組んでまいります。

那覇港管理組合新庁舎等施設整備につきましては、当組合の厳しい財政状況を踏まえ、財政負担の軽減及び賑わい空間の創出を考慮しながら、民間事業者と対話を行い民間の資金やノウハウを活用した事業化方針案の策定に向けて取り組んでまいります。

3つ目に、「沖縄の経済・生活の強靱化を支える“みなど”」について申し上げます。

大規模地震等発生時に円滑な救命活動や物資輸送を確保するため、耐震強化岸壁である新港ふ頭地区14号岸壁の整備促進、沖縄県の緊急輸送道路に指定されている臨港道路 港湾2号線における液状化対策、臨港道路 港湾浦添ふ頭地区1号線小湾橋の耐震補強に取り組んでまいります。

また、泊ふ頭地区及び三重城地区海岸につきましても、護岸の老朽化が著しいため、護岸整備に取り組んでまいります。新港ふ頭地区においては、上屋の老朽化が著しいため、上屋建替の整備に取り組んでまいります。

次に4つ目の「持続可能な発展を実現する“みなど”」について申し上げます。

令和4年に施行された改正港湾法に基づく「那覇港港湾脱炭素化推進計画」の策定に向け、取り組むとともに、港湾計画改訂及び社会情勢の変化等を踏まえた「那覇港（浦添ふ頭地区）港湾整備に伴う海域環境保全マニュアル」の改定に取り組

んでまいります。

また、港湾の持続可能な開発・利用・保全を行う体制の確保として、民間活力の導入による管理運営体制の検討に取り組んでまいります。

最後に「令和6年度予算編成」についてご説明申し上げます。

令和6年度の予算編成にあたっては、今後の港湾計画に基づく新港ふ頭地区再編整備や浦添ふ頭地区交流賑わい空間整備など、旺盛な財政需要の中、各種施策を着実に推進すべく、事務事業の効率性や緊急性を精査し、経費の見直し点検など歳出抑制を徹底した上で、限られた財源を重要な施策に効果的に配分することを基本に、所要額を計上しております。

その結果、令和6年度予算案は、
一般会計において 33億7,315万9千円
特別会計において 29億5,585万8千円
となっております。

以上、令和6年度的那覇港の運営にあたり、私の所信および主要な施策について述べてまいりま

した。

今後とも、那覇港が県内港湾の中核的な役割を果たし、沖縄県の経済発展と県民生活の向上に寄与できるよう全力を尽くしてまいります。

議員各位及び県民、市民の皆様のご理解とご協力を強くお願い申し上げます。私の施政方針といたします。

イッペー、ニフェーデービル